



矢野 邦夫 先生

浜松医療センター

院長補佐 兼 感染症内科長 兼 臨床研修管理室長 兼 衛生管理室長

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター(2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更)。「96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修了。'97年 感染症内科長/衛生管理室長に就任。2011年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索

Click

飼いネコとCOVID-19

CDCはホームページのNews roomの中で「ニューヨーク市の2匹の飼いネコがCOVID-19に罹患していた」との速報を出していたが(1)、その詳細がMMWR(週報)に記載されたので紹介する(2)。

4月22日、CDCと米国農務省(USDA:U.S.Department of Agriculture)は、SARS-CoV-2感染が確認された2匹の飼いネコについて報告した。これらの2匹は、米国でSARS-CoV-2感染したコンパニオンアニマル(ペットおよび介助動物を含む)の最初の症例である。2匹は別々の世帯に住んでおり、それぞれの世帯でCOVID-19が疑われるまたは確認された人間と疫学的に関連していた。

■ ネコA

3月24日、ニューヨーク州ナッソー郡で、4歳の雄のアメリカンショートヘア[註釈:ネコの品種の1つ](ネコA)が、くしゃみ、透明な眼脂、軽度の嗜眠を特徴とする呼吸器疾患を発症した。4月1日、そのネコは動物病院に受診した。身体検査の結果、過体重であり、体温(38.6°C)は正常であった[註釈:ネコの正常体温は38~39°C]。

鼻、口咽頭、眼のスワブが獣医スタッフによって収集され、*Mycoplasma felis*、*Bordetella bronchiseptica*、feline calicivirus、*Chlamydophila felis*、feline herpesvirus、influenzaAH1N1pdmを検出できるネコ用呼吸器ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)パネルで検査するために、民間診断ラボ(ラボA)に提出された。広域スペクトルのセファロsporin系抗菌薬(セフォペシン)が皮下投与され、ネコは帰宅した。そして、4月3日までに治癒した。呼吸器パネルの結果はすべての病原体で陰性であった。検体はラボAのCOVID-19ペット監視プログラムの一環としてのSARS-CoV-2逆転写PCR(RT-PCR)診断アッセイを使用して検査された。

■ ネコB

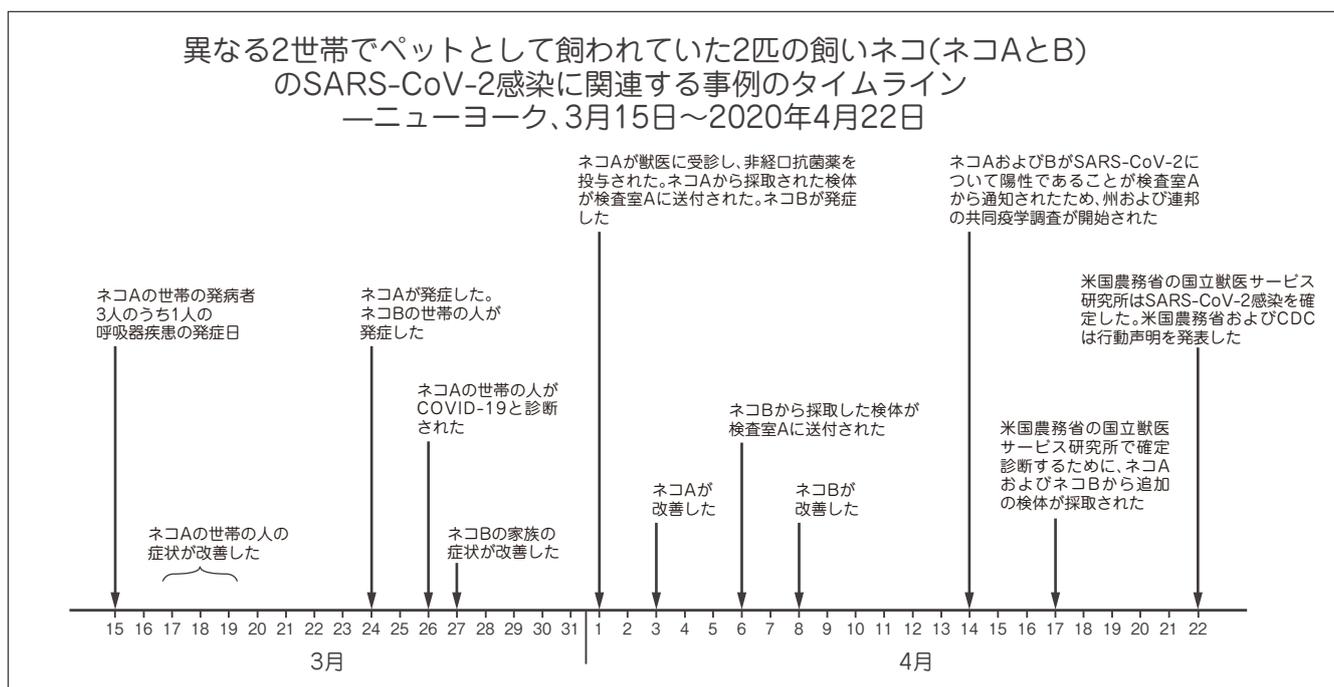
4月1日、ニューヨーク州オレンジ郡で、5歳の雌のデボンレックス[註釈:ネコの品種の1つ](ネコB)が、くしゃみ、咳、鼻汁と眼脂、食欲不振、嗜眠などの呼吸器疾患を発症した。4月6日、コネチカット州の獣医診療所の従業員である飼い主が、自宅でネコBから結膜、鼻、深部口腔、糞便の検体を採取した。これらの検体はラボAに送られ、ネコ用呼吸器PCRパネルで検査された。そして、無治療で、4月8日までに治癒した。ラボAでは、ネコ用呼吸器PCRパネルが*Mycoplasma felis*について陽性であったが、他の一般的なネコ呼吸器病原体については陰性であった。ネコBの検体も、ラボAでSARS-CoV-2について検査された。

■ 公衆衛生の対応

4月14日、ネコAおよびBがSARS-CoV-2について陽性であることが判明したため、州および連邦の共同疫学調査が開始となった。ネコAは、発熱、咳、発汗などの軽度の呼吸器疾患の症状を呈した3人を含む5人が居住しているアパートに住んでいた。5人の誰もSARS-CoV-2感染について検査されていない。このなかで最初に発症した人の発症日はネコAが病気になる9日前の3月15日頃であり、症状の持続時間は48時間未満であった。その世帯の2匹目のネコ（3歳の雌のアメリカンショートヘア）は健康であったため、SARS-CoV-2の検査は実施されなかった。ネコは2匹とも通常は屋内で飼育されているが、時々屋外に出かけていた。

ネコBは単身者の家に住んでおり、飼い主はネコBが発症する8日前の3月24日に発熱、咳、悪寒、筋肉痛、腹痛、頭痛、下痢、喉の痛み、倦怠感を経験した。この飼い主から3月26日に採取された検体は、SARS-CoV-2陽性であった。飼い主は3月27日までに治癒した。この家の2匹目のネコ（7歳のデボンレックス）は健康であったため、SARS-CoV-2の検査は実施されなかった。2匹のネコは、もっぱら屋内で飼われていた。

ネコAとネコBは、疫学調査の開始の11日前と6日前に治癒したので、追加の監視または感染防止対策は推奨されなかった。



■ 今後の対応

SARS-CoV-2は、コウモリを起源とする人畜共通感染コロナウイルスである。イヌ、ネコ、動物園のトラ、ライオン、養殖されたミンクなど、世界で少数の動物がSARS-CoV-2に自然感染しており、その殆どがヒトから動物への感染と推測されている。さらに、フェレット、ゴールデンシリアンハムスター、エジプトルーセットオオコウモリ、ネコでの実験的研究では、同種の飼いならされた動物にウイルスが伝播する可能性があることが示されている。

現時点で、動物がCOVID-19の拡散に重要な役割を果たしているというエビデンスはないが、CDCは、COVID-19が疑われるまたは確認された人には、罹患中は動物との接触を避け、SARS-CoV-2感染が確認された動物を監視し、自宅で他の人や動物からそれらを隔離することを推奨する。

[文献]

- (1) CDC. Confirmation of COVID-19 in two pet cats in New York
<https://www.cdc.gov/media/releases/2020/s0422-covid-19-cats-NYC.html>
- (2) Newman A, et al. First reported cases of SARS-CoV-2 infection in companion animals — New York, March–April 2020
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/69/wr/pdfs/mm6923e3-H.pdf>

こちらでも公開しています。

メディコン CDCガイドライン 検索

製造販売業者

株式会社メディコン

本社 大阪市中央区平野町2丁目5-8 ☎0120-036-541

crbard.jp

